



でんぷんはなぜできるの

でんぷんは葉でつくられる

みどりいろ しょくぶつ にっこう ひかり きやうしゆう
 緑色の植物には日光の光を吸収して、でんぷんをつくるはたらきがあります。このはたら
 こうごうせい げんりよう ね す あ みず は うら きこう と い
 きを光合成といいます。原料は、根から吸い上げた水と、葉の裏にある気孔から取り入れた
 にさんかたんそ つく こうじよう は なか ようりよくたい
 二酸化炭素です。でんぷんを作る工場にあたるのは、葉の中にある葉緑体です。

葉緑体というでんぷん製造工場

ようりよくたい なか おな みず ぶんかい さんそ すいそ おお
 葉緑体の中で行われることは、まず、水を分解して酸素と水素にします。これには大きな
 エネルギーがあります。このエネルギーは、葉緑体にある葉緑素がつかまえた太陽のエネル
 ぎーが使われます。

みず つく すいそ は と い にさんかたんそ ぶくざつ へんか
 水から作られた水素と葉から取り入れた二酸化炭素から、複雑な変化をへて、でんぷんや
 どう えいよう つく みず ぶんかい さんそ しょくぶつ
 糖などの栄養が作られます。水が分解されるときにできた酸素は、植物にとってはあまりも
 のですから、気孔からすてられます。

よる こうごうせい どうぶつ おな さんそ と い じぶん つく だ えいよう
 夜は光合成をしません。動物と同じように酸素を取り入れ、自分が作り出した栄養をもと
 じぶんじしん せいちよう つか
 にして、自分自身の成長に使います。（監修・中山 周平）

